

「関税から考える世界のつながり」

別府市立鶴見台中学校3年 德丸 葵

「アメリカが、すべての輸入品に高い関税をかける。」最近、ニュースでトランプ大統領が語る姿を見て、関税という言葉が強く心に残った。彼の最初の任期の時もそうだったが、再び大統領になった今、その動きは私たちの生活と無関係ではない。遠い国の話ではなく、今まさに起きている問題として、私は関税について考え始めた。

そもそも関税とは、外国からの輸入品にかけられる税金のことだ。その主な目的は、自国の産業を守ることにある。例えば、外国から安い製品がたくさん入ってくると、国内の同じ製品が売れなくなり、作っている会社が困ってしまう。そこに関税をかけることで輸入品の値段を少し上げ、国内の産業が競争しやすくするのである。国内の企業や雇用を守るための、いわば「防波堤」のような役割だ。

もちろん、関税には良い面ばかりではない。私たち消費者にとっては、輸入品の価格が上がるという直接的な影響がある。多くの人々が使うスマートフォンも、その部品の多くは海外製だ。もし高い関税がかけられれば、製品の値段が上がり、私たちの負担が増えることになる。

さらに大きな問題は、国と国との関係に影響を与えることだ。トランプ大統領が進めるように、ある国が一方的に高い関税をかけると、相手の国も「仕返し」として日本の製品に関税をかける「報復関税」に発展しかねない。日本は自動車や電子部品など、優れた製品を世界中に輸出している。もし貿易戦争のような状態になれば、日本の製品が海外で売れなくなり、日本経済全体が大きな打撃を受ける。自国を守るための関税が、結果的に自国の首を絞めることにもなりかねないのだ。

トランプ大統領の政策は、「自国の利益を最優先する」という考えに基づいている。自分の国のこと第一に考えるのは大切かもしれない。しかし、現代の世界は貿易などを通じて複雑につながり合っている。一つの国が自分だけの利益を追求し、高い「壁」を築いてしまえば、国同士の信頼関係は失われ、世界全体の経済が混乱してしまうだろう。

関税は、国内産業を守るために必要な「道具」であると同時に、使い方を間違えれば国同士の関係を壊しかねない「両刃の剣」なのだと分かった。大切なのは、自国を守ることと、世界と協力することのバランス感覚だろう。

ニュースで流れる難しい言葉をただ聞き流すのではなく、その背景や私たちの生活への影響まで考えること。そして、現在進行形の問題として見つめていくことの大切さを学んでいる。これからの中を生きる私たちは、自國のことでなく、世界とのつながりを意識し、共に生きていくという視点がますます重要になっていくと思う。